令和８年度　塩焼小学校　研究構想

研究主題

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現に向けた授業づくり
～ICT の積極的な活用を通して～

主題設定の理由

①「新しい時代の学校教育」の実現

人工知能（AI）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety5.0 時代が到来しつつあり、２０２４年は市川市全体でも授業の大きな転換期を迎えた。これまでの市川の学校教育を礎に、社会の構造的変化、テクノロジーの進化に対応しながら、「新しい時代の学校教育」が求められている。学習指導要領には、「一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と記載されている。市川市では、ＧＩＧＡスクール構想にて、個別最適な学びと協働的な学びを一体化させ充実させるためにＩＣＴ環境や１人１台端末環境の充実を図ってきた。また、第４期市川市教育振興基本計画の重点５項目に「（３）タブレットの活用」が取り込まれている。情報の加速度的な進展に対応するために、児童の可能性を最大限に引き出し、学習進度や個性に合わせて学びを深めることが重要であることが考えられる。加えて、探究的な学習や体験活動などを通じ、子ども同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あるゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成することが重要である。そのためには、ICT の活用と、これまでも重視されたきた「個に応じた指導」を子ども視点から整理した「個別最適な学び」、多様な他者と協働しながら、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す「協働的な学び」の一体的な充実を通して、児童に「予測困難な時代」を生き抜く資質・能力を育成することが求められている。

②ICT 活用における塩焼小学校の実態

令和７年度の全国学力・学習状況調査の結果から、塩焼小学校は高頻度でＩＣＴ機器を活用していると回答した児童の割合が高く、全国平均・千葉県平均を大幅に上回っていたことから、本校は教師も児童も積極的にタブレット端末を始めとしたＩＣＴ機器を積極的に活用しているといえる。また、ＩＣＴ機器を活用する自信がある児童ほど、探究的な学びに取り組んだと回答したり、自分の考えを工夫してまとめたり発表したりする活動に取り組んでいた。加えて、ＩＣＴ機器活用に関して肯定的に回答した児童ほど、自分と違う意見や新たな考えについて考えることが前向きであるという結果も出た。また、本校の無回答率の低さは前年度までと比べても変わらず低い。これは、ＩＣＴを積極的に活用することで、自分の考えを持って取り組むことにつながったと考える。ＩＣＴを活用する利点として具体的に、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「分からないことがあったときにすぐに調べることができる」「楽しみながら学習を進めることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」と答えた児童が多かった。これは個別最適な学びに効果的に寄与していると考えられる。一方、協働的な学びにつながる利点としては、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」などを挙げている児童が多かった。

教職員も積極的にデジタル教科書の検証授業に参加したり、市川市教研の実践授業をしたり、他校へ研究授業を見に行ったりなど、ＩＣＴを積極的に活用し、研究熱心な教職員が多い。

児童だけでなく、教職員もＩＣＴ活用に前向きであることから、ICT の特性や強みを理解した上で、授業内に適切に取り込むことにより、児童の資質・能力を育成することが期待できる。

③目指す教職員像の実現

教員の授業力や専門性の向上を図るため、研究教科は自分で決め、一人一授業を行っていく。それにより、教職員全員の授業力の育成を図り、ICT になじみのない先生や若年者が自分で授業をすることによって、新しいスキルを磨くことにつなげられると考える。自分で選択した教科について学び、ＩＣＴを様々な教科にて活用することで、学校教育目標における目指す教職員像にある「職種の専門性を身に付け、向上心あふれる教職員」に迫ることができる。

研究の全体構造

学校教育目標

かしこく　やさしく　ねばりづよく

《かしこく》	《やさしく》	《ねばりづよく》
自分で考えて取り組み、心と言葉で関わり合いながらともに学び合える子	互いの違いを理解し認め合い、助け合いながら生活できる子	自分の持ち味を発揮し、最後まであきらめずに取り組める子

研究主題

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現に向けた授業づくり
～ICT の積極的な活用を通して～

目指す児童像

自ら課題意識をもち、ねばり強く学び続ける子

研究仮説

個別最適な学びと協働的な学びを実現させるために ICT を効果的に活用することで、ねばり強く学び続ける子になるだろう。

一体的な充実

個別最適な学び
- 指導の個別化
- 学習（ゴール）の個性化
- 振り返りによる自身の変容や成長の自覚

協働的な学び
- 課題解決に向けた協働的な学び
- 成果の共有などを通した考えの広がりと深まり

ICT の積極的な活用
体験活動の充実

【１年次】・個別最適な学びと協働的な学びのおさえ
・ICT の活用に関する基本的な考え方

【２年次】・各教科における個別最適な学びと協働的な学びのポイントのおさえ

【３年次】・ICT を効率的に活用した個別最適な学びと協働的な学び

市川市学力向上推進校（ICT 活用）指定（3 年間）